パチンコ・パチスロ業界最新情報

週刊アミューズメントジャパン

Weekly Amusement Japan

2022年（令和4年）5月16日 月曜日

Weekly Amusement Japan
©2022 Amusement Press Japan Inc.
editing & publishing
Amusement Press Japan
planning & production
Amusement Promotion
printing
Four Plus One
年間購読料27,000円（税・送料込）
本紙記事の無断転載を禁じます。

編集・発行所　株式会社アミューズメント プレス ジャパン　〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-21-10 えびすアシスト5F　TEL.03-5447-0555　https://www.amusement-japan.co.jp

今週の紙面から

最新の「がん検査」に協力
名古屋市内のホール2店舗
森創　3面

防災特化型ホールを披露
岡山市内に5店舗・総台数5000台超へ
nikko泉田店　2面

住民が集う憩いの場に
今までにない新しいダイナム
ダイナム鹿児島伊集院店　2面

昨年末時点のホール軒数・遊技機台数
警察庁発表　2面

年間拠出総額は11億円
POSC　3面

遊技者の娯楽参加率
シーズリサーチ　4面

業況は前回調査から回復
DI調査報告書2022年3月　3面

TOP INTERVIEW
マースエンジニアリング、
ユーコーラッキーグループ　4面

週刊アミューズメントジャパンは
月曜日Webアップ!
PDFでもご覧いただけます
アミューズメントジャパン　検索

警察庁発表
2021年12月末の店舗数・遊技機台数
店舗数8458軒
1年間で577軒・19万台減少

警察庁の統計によると2021年12月末時点の全国のホール数は8458軒で、遊技機総設置台数は381万4173台だった。昨年1年間の店舗数の減少率、遊技機台数の減少率はいずれも2020年を上回った。

【都府県方面別データを2面に掲載】

警察庁が公表した資料「令和3年における風俗営業等の現状と風俗関係事犯の取締り状況等について」によると、2021年12月末時点のパチンコホールの営業所数（許可数）は2020年12月末時点より577軒（6・4％）減少し、スマートボール等を含む遊技機設置台数は19万614台（4・8％）減少した。

パチンコ遊技機は233万8294台で2021年の1年間に9万4269台（3・9％）減少。パチスロ遊技機は147万5703台で同9万6345台（6・1％）減少。いずれも2020年の減少率を上回った。

	2018年末	2019年末	2020年末	2021年末
店舗数（軒）	10,060	9,639	9,035	8,458
遊技機合計（台）	4,302,731	4,195,930	4,004,787	3,814,173
パチンコ遊技機（台）	2,637,309	2,557,845	2,432,563	2,338,294
パチスロ遊技機（台）	1,665,243	1,637,906	1,572,048	1,475,703
スマートボール等（台）	179	179	176	176

営業所数
減少幅大

	（前年比%）
三重県	87.5
山形県	88.0
滋賀県	90.6
埼玉県	91.4
鳥取県	91.7
大阪府	91.7

総設置台数
減少幅大

	（前年比%）
青森県	83.1
新潟県	89.9
三重県	92.1
神奈川県	92.5
山形県	92.8

2021年12月末時点の1店舗あたりの設置台数の平均は451・0台で、前の年より7・7台増加し小型店の淘汰が裏付けられた。

2021年12月末時点の営業所数を都道府県別に見ると、富山を除く都府県で前年より減少した。特に減少割合が大きかったのは三重で14軒（22・5％）減少。このほか山形、滋賀も大きく減少した。

遊技機総設置台数を維持していたのは熊本、京都のみ。遊技機台数の減少率が最も大きかったのは青森で16・9％（130台）減少。次いで新潟、三重、神奈川、山形。これら遊技機台数の減少が顕著だった県では、特にパチスロ遊技機の減少が大きく、青森では前年より18・6％も減少。新潟、山形でも10％以上減少した。

3年前の2018年12月末時点と比較して、店舗数の減少幅が大きいのは三重、群馬、栃木。遊技機台数の減少幅が大きいのは青森、群馬、三重、山口、奈良。青森と三重は店舗減少、遊技機台数減少のいずれも大きく進行した。

九州で「武遊会」発足
武田良太衆議院議員を応援

武田良太衆議院議員

遊技産業の健全な発展を目的に、九州を中心とする遊技産業に関わる約40人が発起人となり、武田良太衆議院議員（自民党・福岡11区選出）を応援する有志の会「武遊会」を立ち上げた。代表発起人は金海龍海氏（ユーコーホールディングス）。

武田議員は衆議院当選7回のベテラン議員。自民党では副幹事長や幹事長特別補佐などを歴任し、第四次安倍内閣で初入閣し国家公安委員長などを務め、菅内閣では総務大臣を務めた。

4月初旬に福岡市内で開催した発足式には、武田議員と約40人の発起人が出席。武田議員は「遊技業界におけるさまざまな問題に関してはこれまで、浅はかながら勉強させてもらった。警察庁も『時代に適した風営法を求める議員連盟』などを通して一つひとつ前向きな解答を導き出しつつある。今後も政治家として、遊技産業のさまざまなご要望をサポートできるようにしたい」と意気込みを述べた。

武遊会の幹事長に就任した金海基浩氏（ユーコー）は「遊技産業の健全な発展のためには、抱えている諸問題を解決するために国政に対して意見を発信していける環境を自分たちでつくっていかなければならない。ここをスタートに武田先生の下で勉強していきたい」と話した。

武遊会は今後、政経セミナーなどへの参画や、遊技業に関する年2回の勉強会、武田氏と会員の親睦を図る懇親会の開催などの活動を予定している。

「武遊会」役員（敬称略）

代表発起人	金海龍海（ユーコーホールディングス）
代表世話人	平岡聖教（ヒラオカコーポレーション）
世話人	樋口益次郎（三宝商事）
世話人	福山浩範（フェイスグループ）
幹事長	金海基浩（ユーコー）
幹事	新冨雅哉（新富商事）
幹事	山田篤（九州エース電研）
相談役	岩下博明（岩下兄弟）

医療機器などを寄贈
新和ホールディングス

プレイランドハッピーの屋号で北海道内にホール20店舗を運営する新和ホールディングス（札幌市中央区）は、札幌医科大学附属病院に新生児ケア用医療ベッド2台と救急医療用ストレッチャー2台、AED1台、歩行補助器1台を寄贈。4月19日、札幌医科大学記念ホールで贈呈式が行われた。

贈呈式では新井修社長から同病院の山下敏彦理事長に目録が手渡され、山下理事長からは謝辞とともに感謝状が贈られた。寄贈した医療機器は、NICU（新生児集中治療管理室）やGCU（新生児回復治療室）などで活用される。

同病院への寄付は今回で12回目。昨年はコロナ禍における感染症対策や医療体制の充実に役立ててもらおうと1000万円を寄付している。

山下理事長（左）から感謝状を受け取った新井社長

福山城改修に500万円
イチフジネットワーク

枝広市長と長舗室長（右）

広島県を中心にホール14店舗を運営するイチフジネットワーク（福山市）は4月11日、福山市から感謝状を贈られた。市に500万円を寄付したため。贈呈式が福山市役所の市長室で行われ、経営企画室の長舗毅輔室長が枝広直幹市長から感謝状を受領した。

この寄付金は福山城築城400年記念事業として、福山城天守外観復元などのために活用される。

ウクライナ避難民を支援
神奈川県遊協

神奈川県遊技場協同組合は、神奈川県のウクライナ避難民支援の取り組みに賛同するため、230万円相当の物品を寄付した。4月25日に神奈川県庁本庁舎で贈呈式が行われ、伊坂重憲理事長が黒岩祐治知事に目録を贈呈した。

今回寄付したものは、県営住宅用の家財用具一式5部屋相当。県営団地5戸をすぐにでも生活できるようにし、避難民が少しでも希望を持って生活できるようにするのが目的だ。伊坂理事長は「戦争は長引く可能性もある。避難民の方には安心して生活してもらえるよう、引き続き支援を続けていきたい」と語った。

伊坂理事長（左）と黒岩知事

小学校に一輪車14台
アシベ商事

静岡県でホール8店舗を経営するアシベ商事（下田市）は4月26日、下田市立朝日小学校に一輪車14台（10万円相当）を寄贈した。低学年でも高学年でも利用できるように、16インチ、18インチ、20インチを用意した。

体育館で行われた寄贈式には、鈴木宏侑取締役、総務部の松本竜彦部長、時点の営業店舗数は7324軒で、前月より94軒（1・3％）減少した。3月中の新規店舗数は3軒、廃業店舗数は110軒、休業店舗数は31軒。

3月末時点のパチンコ遊技機台数は206万4743台で、前月より1万5656台（0・8％）減少した。パチスロ遊技機台数は128万8127台で、同1万6184台（1・2％）減少。その他を含む遊技機総台数は335万2870台だった。

感謝状を掲げる鈴木取締役（右から二人目）

全日遊連加盟店舗の実態調査結果　都府県方面遊技業協同組合加盟店舗

	営業店舗数	新規店舗数	廃業店舗数	休業店舗数（当月発生分）	遊技機台数 ぱちんこ遊技機	回胴式遊技機	その他（※）	総台数
2021年3月	8,063	6	127	151（23）	2,187,288	1,421,513	37	3,608,838
4月	7,979	6	49	142（13）	2,179,298	1,415,826	37	3,595,161
5月	7,926	2	44	151（22）	2,171,548	1,407,526	37	3,579,111
6月	7,876	1	44	154（20）	2,160,243	1,400,922	37	3,561,202
7月	7,853	1	21	159（13）	2,156,734	1,396,676	37	3,553,447
8月	7,808	0	46	165（25）	2,149,246	1,389,616	37	3,538,899
9月	7,753	4	65	167（24）	2,136,918	1,381,320	37	3,518,275
10月	7,718	2	38	165（25）	2,133,652	1,376,621	37	3,510,310
11月	7,677	1	36	168（21）	2,127,156	1,371,631	37	3,498,824
12月	7,637	10	52	163（23）	2,130,422	1,362,674	0	3,493,096
2022年1月	7,544	3	73	188（49）	2,110,159	1,341,112	0	3,451,271
2月	7,418	3	87	223（59）	2,080,399	1,304,311	0	3,384,710
3月	7,324	3	110	213（31）	2,064,743	1,288,127	0	3,352,870

（注）①店舗数、遊技機台数は、各月の末日現在の数　②※その他はアレンジボール、じゃん球、スマートボールを意味する　（2022年4月19日現在の集計）

全日遊連 営業店舗数
3月末時点7324軒

全日本遊技事業協同組合連合会が集計した組合加盟店舗の実態調査によると、2022年3月末時点の営業店舗数は7324軒で、前月より94軒（1・3％）減少した。3月中の新規店舗数は3軒、廃業店舗数は110軒、休業店舗数は31軒。

3月末時点のパチンコ遊技機台数は206万4743台で、前月より1万5656台（0・8％）減少した。パチスロ遊技機台数は128万8127台で、同1万6184台（1・2％）減少。その他を含む遊技機総台数は335万2870台だった。

従業員に特別一時金
玉屋

福岡、佐賀でホール14店舗を展開する玉屋（福岡市中央区）は6日、従業員に特別一時金を支給したことを発表した。支給対象者は、正社員およびパート・アルバイトの全423人。支給額は正社員が5万円、パート・アルバイトが3万円で、その総額は1847万円に上る。

玉屋では「ガソリン価格や身近な食品、日用品など幅広い分野で物価が上昇し、家計への負担が増加している中で、一生懸命に業務に精励し、業績目標の達成に貢献している従業員に対する生活支援の一環として支給した」としている。

日本盲導犬協会から感謝状
ハリウッドチェーン・成通グループ

（左から）盲導犬協会東京事務所の髙野秀一所長、PR犬のヒカちゃん、成通グループの千原行喜代表

岡山県を中心に33店舗のホールを展開しているハリウッドチェーン・成通グループ（岡山市）は4月26日、公益財団法人日本盲導犬協会から感謝状を受領した。この感謝状は、地元放送局の番組「with盲導犬」を通し、15年にわたって盲導犬育成支援事業に協賛したことによるもの。

同社は「今年で15年目の節目の年になったが、今後もさらに盲導犬育成事業の啓発に協力を続けていきたい」とコメントしている。

27団体に計486万円助成
サンエイグループ

22日に行われた授与式。助成授与団体「くらしき防災士の会」の木村健太郎氏（左）と三永の吉田清志社長

岡山県を中心に「サンエイ」「ジャンボ」の屋号でホール13店舗を展開する三永／サンエイグループ（岡山県）が設立したサンエイグループ社会貢献福祉基金（サン基金）は4月22日、今年も地域の社会福祉諸活動の支援事業として27団体・個人に対して活動資金もしくは物品計約486万円相当を助成した。

助成先は2022年の助成事業に応募した団体の中から3月に選ばれた岡山・山口・滋賀エリアのNPOなど。

サン基金は2000年に設立され今回の助成事業が第23回目。2019年には全日本社会貢献団体機構による「社会貢献大賞」の組合員ホール部門で最優秀賞を受賞している。

親子でモビール制作体験
善都

愛知県を中心にホール24店舗を運営する善都（愛知県豊田市）は5日、『ZENT名古屋北店』に併設するZENT ART MUSEUMで、親子でモビール制作を体験できる『えらべるモビールキット』のワークショップを開催。9組15人が参加した。

モビールは天井から吊るされる装飾品で、空気の流れだけで動く知育玩具。主に乳幼児をあやすために用いられ、近年はエコグッズとしても人気が高い。ワークショップでは、10種類以上のキャラクターの中から好きなものを4つまで選んで制作した。

このワークショップは、5月3日から5月29日までZENT ART MUSEUMで開催中の展覧会「マニュモビールズの世界展」に併せて企画されたもの。5月21日と22日にも開催予定。

モビール制作の体験はGWの思い出になった

アスベスト含有率0%
素材は、環境に優しい珪藻土・砂・良質食物繊維です。アスベストが含まれていないことを第三者機関が証明。

さらに汚れにくく清掃が楽に
お手入れは簡単に水洗いするだけ。最新製品は製造過程を徹底的に見直し、さらに汚れにくく清掃が楽になりました。

2週間に1回 Etakを塗布 カンタン脱臭・抗菌!
特殊構造のマットが、尿の垂れ・飛散を吸収&脱臭。2週間に一度Etakをスプレーするだけで脱臭・抗菌効果が持続。

Etak ※Etakとは、対象物に固定化し持続性を付与させた抗菌剤です。

YouTubeで動画を公開中!
製品の特長や使い方がよくわかります
NeoPlusトイレマット

株式会社plus
〒732-0852 広島県広島市中区猫屋町2番22号
TEL.082-508-6320 FAX.082-289-7700
https://www.yu-group.net/

nikko泉田店（岡山県岡山市）

防災特化型ホールを披露

日光商事グループ（愛媛県新居浜市）の『nikko泉田店』は「防災特化型店舗」をコンセプトにつくられた。グランドオープンを月末に控えた4月21日に地元メディアや業界関係者にその防災設備が披露された。

日光商事グループは地元四国のほか、大分県、岡山県で「nikko」などのブランドで店舗展開している。総台数1320台（パチンコ880台、パチスロ440台）の『nikko泉田店』の開業（4月29日）でグループ15店舗、岡山市内では5店舗目となる。

お披露目会で日光商事グループの川井祐介代表は、「地域社会に必要とされる存在であるためにどのような貢献ができるか

日光商事グループの川井祐介代表

ホール最前線

岡山市内に5店舗・総台数5000台超へ

を模索する中で、建築設計を担当したメガクリエイトからの提案を受け、有事の際の避難拠点としての機能を高いレベルで備えるホールをつくることに決めた」と経緯を説明。もともと川井社長の念頭には、2018年7月の岡山豪雨災害の体験があった。当時、同社店舗は約500台分の立体駐車場のスペースを近隣住民の避難場所として無料開放し、利用者から「安心した」と感謝の声を寄せられたからだ。

A

川井社長の挨拶の後、メガクリエイトの小島裕也氏が来場者を引率し、各所に設置、展示された設備を紹介した。

備品・備蓄品は、200人が3日間避難生活を送れる数量で、2・1m×2・1mの防災テント100張、200人分の防災セット、食品や日用品など。このほか休憩コーナーを広めに設けるなどの設計上の工夫や、太陽光発電パネルや密閉型耐震性貯水槽、水ろ過循環装置、屋外対応災害用トイレ、かまどベンチなど最先端の防災設備を備えている。川井代表によると、それら防災設備に投じられた費用は約2億円。

B

A／立体駐車場は災害時に避難場所として開放。テントを張って休める。そのためスロープを含め通路を広めに設計した　B／非常時用飲料水6300リットル（およそ300人の6日分）を約20年保管できる密閉型耐震性貯水槽「水の缶詰」を設置。このほか、シャワーに使った水の98%を再生利用できる屋外シャワーキットなどを備えている

ダイナム鹿児島伊集院店（鹿児島県日置市）

地域住民が集う憩いの場に

ダイナムは4月23日、鹿児島県日置市に『ダイナム鹿児島伊集院店』（総設置台数620台）をグランドオープンした。店舗外観・内装、併設したダイニング、そしてサービスにこだわり、地域住民が毎日集まれるようなコミュニティを目指している。

緑を基調に自然とマッチする外観

『ダイナム鹿児島伊集院店』は、グループ全体で434店舗目となる約2年ぶりの新店。鹿児島県内では約5年ぶり、11店舗目の店舗となる。

同店は総設置台数620台（パチンコ420台、パチスロ200台）の郊外店。商圏内には同店を含めて1km圏内に4店舗が点在する。

ホール最前線

今までにない新しいダイナム

「今までは店舗を見ただけでダイナムとわかる外観でしたが、当店のデザインはこれまでの店舗とは少し違います。木のぬくもりをイメージした配色と企業カラーであるグリーンを差し込み、落ち着いた外観になっています」と話すのは渋谷慶輔ストアマネジャー。

島設備はそのままに、ダイナムらしいぬくもりを感じる内装に

アルバイトスタッフには、ホールでの勤務経験や遊技経験がない人を採用。エラー対応などの作業面には一切触れず、来店客への対応、コミュニケーションの研修に時間を割いた。また、店舗の方針を全従業員が理解するために、アルバイトを含むスタッフと商圏を回り、競合店の接客や地元住民の生活状況、食事にかける金額などを全員で調査・共有しているという。

「この商圏のお客様は何を求めているのか、そのお客様に定着していただくために自分たちができることを考えて実行しています。グランドオープンに照準を合わせるのではなく、定着していただくというところを考えて、会員数などの目標設定や接客研修を行っています」

グランドオープンで集まった地元住民の定着を目指す『ダイナム鹿児島伊集院店』渋谷ストアマネジャーは今後の目標をこう話す。

「開店時間からピークを迎える店舗を目指しています。夕方に向けて緩やかに客数が減っていくとしても、朝から集まっていただけたお客様の生活の一部にダイナムがあるんだなと実感できると思います。伊集院店で起こった出来事で、お客様のご家族に会話が生まれたりする、そんな地域から必要とされるような店舗を目指したいですね」

渋谷ストアマネジャー

競合他社から講師招き研修

業界にSDGsの輪を広げる活動

プレストの屋号で神奈川県内にホール4店舗を運営する五輪（神奈川県横浜市）は4月15日、SDGsに関する社外講師を招いた社内研修を実施した。講師を務めたのは、関東圏でホール14店舗を展開するジャパンニューアルファ（厚木市）の赤羽良太総務部長だった。

五輪本社で行われた研修には、本社や店舗で勤務する役職者や一般社員13人が参加。プログラムは約4時間。前半では基礎知識をテーブルゲーム形式で学び、後半ではグループディスカッションを通じて理解を深めた。

研修を終えた社員は「これまでの取り組みもSDGsに結び付いていることに気づけた。活動を見直してより良いものにして、持続可能な社会を未来の子どもたちにつなげたい」と感想を語った。

五輪は同様の社内研修を今後も定期的に実施していく予定だという。

社内研修でSDGsについて学んだ

SDGsを学んだ理由は業界の明るい未来のため

五輪の本社機能も備えるホール『PREST三ツ境店』（横浜市）の立地環境は、5キロ圏内に22店舗の競合店がある。このうち2店舗がジャパンニューアルファの店舗。研修に参加した五輪の岩間尚之部長は、赤羽氏を講師に招いた経緯を次のように話す。

「赤羽さんからのご提案を受けて、講師役をお願いしました。赤羽さんとは年に数回、組織団体の集まりで顔を合わせていて、周囲からも『SDGsの勉強を熱心にされている』と聞き及んでいました。当社は今年、SDGsを本格化させていく方針を打ち出しましたので、教えを乞うには適任だと思いました」

赤羽氏は本業の合間を縫ってスクールに通い、SDGsに関するさまざまな認定を取得していた。副業を認めるジャパンニューアルファは赤羽氏の独立を応援。赤羽氏は在籍しながら個人事業主として「SDGs&Career」を立ち上げた。事業内容はSDGsを始めようとする企業へのサポート研修。主に業界企業が対象だ。

ジャパンニューアルファに勤務しながら、SDGs&Careerを立ち上げた赤羽氏

小中高の授業内容にSDGsが盛り込まれたことで、SDGsへの関心は若年層ほど一般的になっている。就職活動時にはSDGsに取り組む企業であることが、就職先として選ぶポイントの一つになるほど。企業としては社会的な風潮だけでなく、新卒や取引先のニーズに応える必然性が生まれているのだ。

パチンコ業界を中心にSDGsを広めたいと話す赤羽氏は、業界の明るい未来を想像している。

「業界発展には、若くて優秀な人財の獲得が必要です。SDGsに無頓着のままでいれば、それこそ選ばれない企業、見向きもされない業界になってしまう。業界内にくまなくSDGsを広めることが、私の使命だと感じています」

SDGs&Careerの問い合わせ先
E-mail：sdgs.career@gmail.com

都遊協 一般向け書籍発行を企画
ギャンブル依存の実情を啓蒙

東京都遊技業協同組合青年部は、ギャンブル依存症の実情の啓蒙と、遊技業界の経済・雇用面での社会貢献を理解してもらうため、一般向け書籍の発行を企画している。同書では、一部の医師や医療機関によってなされた「パチンコがギャンブル依存症元凶率8割」といった偏ったこれまでの主張や、依存症が疑われる人の過大な推計値の報告などに対して、専門的な研究者から異論を唱える。

ギャンブル依存症のスクリーニングテストで「依存症の疑い」と判定された人のうち、問題となる人は数パーセントにすぎない。娯楽としてのプラス面と依存症発症リスクとしてのマイナス面を考えると、マイナス面は実際は小さいことなどを説明する。

全8章程度、新書サイズ約200ページを想定し、学校現場での依存症教育に活用される内容にすべく、客観的事実をもとにパチンコの長所も欠点も解説する。

書籍の中核をなすのは都遊協が2020年と21年に助成した、都留文科大学・早野慎吾教授の研究グループのギャンブル依存問題に関する調査研究。同グループが20年に実施した「ギャンブル等依存の要因およびギャンブル射幸性に関する全国調査」を分析した研究論文『日本におけるギャンブル等依存症に関する種類差・地域差に関する研究』は昨年、英国科学誌のサイエンティフィックレポーツ（ネイチャー・リサーチ社）に掲載されている。

ダイコク電機 ゲームで依存度確認
SOGSを応用した「チェッパチ」

ダイコク電機は4月27日、スマートフォンやパソコンで楽しみながらギャンブル等依存症の危険度をチェックできるブラウザゲーム「チェッパチ」をリリースした。

チェッパチは10分程度で手軽にクリアできるアドベンチャーゲーム。プレイヤーがゲーム内のミッションを達成するために選択した行動を、ギャンブル等依存症スクリーニングテスト「SOGS」と照らし合わせて、ギャンブル依存度をチェックする。

依存症への対応を重要課題と位置付ける同社は、「パチンコ業界の課題であるギャンブル等依存問題への対応策の一つとして、ギャンブル依存度を手軽にチェックできるゲームを提供することで社会課題の解決に寄与する」と、ゲーム開発の目的を述べている。

サンエイグループ 車いす9台寄贈

岡山県を中心に「サンエイ」「ジャンボ」の屋号でホール13店舗を展開する三永／サンエイグループ（岡山県）は4月22日、社会福祉法人への車いすの贈呈式を行った。車いすは、社会貢献活動の一環として同社スタッフが回収している缶ジュースのプルタブ約160万個（アルミ資源約800kg）を車いすに換えたもの。

寄贈先は社会福祉法人旭川荘（岡山県）、社会福祉法人山陽小野田市社会福祉協議会（山口県）、社会福祉法人高島市社会福祉協議会新旭総合福祉センターやすらぎ荘（滋賀県）。各所に3台、計9台の車いすを2月に寄贈した。

高島市社会福祉協議会 新旭総合福祉センターやすらぎ荘に寄贈した車いす

STVVと資本業務提携
マルハン

マルハンは3月31日、子会社のマルハンユナイテッドパートナーズ（運営：マルハン東日本カンパニー）を通じて、サッカーのベルギー・プロ・リーグ1部に所属するシント＝トロイデンVV（以下、STVV）と資本業務提携を締結。本提携によりSTVVの株式の一部を譲り受けた。STVVのオーナー企業であるDMM.comから第三者企業がSTVV株式を取得するのは初。

今後はSTVVジャンブランチ（日本支社）とマルハン東日本カンパニーの人材交流、各拠点を活かした日本国内におけるリアルイベントの展開などを予定している。

韓裕社長は「STVVサポーター、スポンサーの皆様とチーム発展、世界へと挑戦する選手たちを応援する。我々も新たなステージでの挑戦と新たな価値を創造し、皆様に提供できるよう力を尽くしていく」とコメントしている。

STVVのクラブエンブレム

ユーコーラッキーグループ 国分店で献血支援

福岡県を中心にホール24店舗を展開するユーコーラッキーグループ（久留米市）は4月22日、久留米市内の『ユーコーラッキー国分店』で献血支援活動を実施。遊技客や従業員など51人が献血に協力した。

同社は『ゆめパーク久留米店』（同市）を皮切りに、2020年5月から献血支援活動を開始。これまでに通算6回を数え、国分店では3回実施している。「久留米高牟礼ライオンズクラブ」と共同で実施した。

2021年12月末時点のホール軒数・遊技機別設置台数

管区	道府県	ホール軒数	遊技機別備付台数 ぱちんこ遊技機	回胴式遊技機	スマートボール等	遊技機総台数※
北海道	道本部	223	63,697	41,214		104,911
	函館方面	43	11,408	7,329		18,737
	旭川方面	66	14,446	8,491		22,937
	釧路方面	66	16,411	10,713		27,124
	北見方面	38	8,833	2,941		11,774
	小計	436	114,795	70,688		185,483
東北	青森県	110	28,741	16,189		44,930
	岩手県	112	29,461	14,110		43,571
	宮城県	169	54,513	29,089		83,602
	秋田県	100	25,480	12,835		38,315
	山形県	81	20,722	11,711		32,433
	福島県	163	46,231	25,491		71,722
	小計	735	205,148	109,425		314,573
警視庁		680	154,625	113,202		267,827
関東	茨城県	222	59,618	42,459		102,077
	栃木県	148	43,840	28,930		72,770
	群馬県	130	38,140	24,420	30	62,590
	埼玉県	406	110,114	74,175		184,289
	千葉県	357	96,596	61,546		158,142
	神奈川県	459	117,314	76,258	21	193,593
	新潟県	145	38,611	22,804		61,415
	山梨県	55	15,991	8,092		24,083
	長野県	146	41,633	23,462	34	65,129
	静岡県	251	70,611	45,801	1	116,413
	小計	2,319	632,468	407,947	86	1,040,501
中部	富山県	63	22,287	12,630		34,917
	石川県	82	24,934	14,036		38,970
	福井県	64	20,572	10,247		30,819
	岐阜県	138	44,205	25,618		69,823
	愛知県	463	156,893	99,912		256,805
	三重県	98	36,081	20,530		56,611
	小計	908	304,972	182,973		487,945
近畿	滋賀県	96	27,548	17,653		45,201
	京都府	148	41,434	23,906		65,340
	大阪府	611	181,897	98,987	53	280,937
	兵庫県	359	85,731	60,416		146,147
	奈良県	67	18,189	9,498		27,687
	和歌山県	72	21,235	11,468	37	32,740
	小計	1,353	376,034	221,928	90	598,052
中国	鳥取県	55	12,010	9,996		22,006
	島根県	62	13,597	9,918		23,515
	岡山県	126	31,265	26,283		57,548
	広島県	229	47,728	38,715		86,443
	山口県	113	30,152	21,699		51,851
	小計	585	134,752	106,611		241,363
四国	徳島県	56	16,786	10,057		26,843
	香川県	72	20,447	12,794		33,241
	愛媛県	111	28,775	19,896		48,671
	高知県	72	19,049	9,014		28,063
	小計	311	85,057	51,761		136,818
九州	福岡県	324	102,085	73,217		175,302
	佐賀県	57	18,607	11,645		30,252
	長崎県	132	32,821	20,976		53,797
	熊本県	134	46,376	25,723		72,099
	大分県	108	31,934	20,366		52,300
	宮崎県	109	36,221	18,505		54,726
	鹿児島県	194	51,161	23,999		75,160
	沖縄県	73	11,238	16,737		27,975
	小計	1,131	330,443	211,168		541,611
合計		8,458	2,338,294	1,475,703	176	3,814,173

※遊技機別備付台数にはアレンジボール、じゃん球、スマートボールを含む　警察庁「ぱちんこ屋等営業所数及び遊技機別備付台数」をもとに編集部作成

New Machine Digest

エレコ
ニューゲッターマウス

問い合せ／㈱ユニバーサルエンターテインメント　導入予定日　7月上旬

©UNIVERSAL ENTERTAINMENT

設定6の合成確率1/99.6 ボーナス軽めの最新作

4号機時代から「ゲッタマ」の愛称で呼ばれ、熱心なファンがいるシリーズの最新作。今作も多彩なリーチ目を搭載、順押しオレンジテンパイ外れや、ハサミ打ちリプレイ外れ、ネズミ3兄弟がからむ出目なども健在だ。分かりやすく奥深い新規演出も複数追加した。設定6の合成確率は1/99.6とA PROJECT史上最高値を実現。他の設定でも当たりが軽く、ベースやコイン単価の面でも遊びやすい仕様になっている。また、フル攻略で設定1でも出玉率が100%を超えるなど、ヘビーユーザーも納得の一台だ。図柄を透過させ、遊技性能をブラッシュアップ。ユニメモも搭載した。

ノーマルタイプ	
ボーナス合成確率	1/123（設定1）～1/99（設定6）
ボーナス獲得枚数	BIG 最大225枚 REG 最大77枚
出玉率	現在調査中　※4段階設定

サンセイアールアンドディ
Pジューシーハニー 3てんこ盛り連写RUSH

問い合せ／㈱サンセイアールアンドディ　導入予定日　6月6日

©2020 MINT CO.,LTD.

人気シリーズがミドルで RUSH継続率は約93%

『Pジューシーハニー3』とは全く異なるRUSHを搭載した1種2種混合機。スペックもミドルタイプで登場した。初当たり時は大当たり中のチャレンジ成功、または「SUPER HONEY BONUS」当選で継続率約93%のRUSH「てんこ盛り連写RUSH」に突入。RUSH中は3カウント以内に図柄が揃えば当たりというストレスフリーなゲーム性で、セクシー女優20人・全100パターンの演出が楽しめる。

ミドルタイプ	
大当たり確率	1/319.68
てんこ盛り連写RUSH突入率	約61%
てんこ盛り連写RUSH継続率	約93%
ラウンド数	3Ror6Ror9R・10カウント
賞球数	3&1&4&5&11

機種情報について
▼時短はSTを含めた回数です
▼パチスロのボーナス枚数は、すべて純増です
▼導入予定日（最速）は納品日ではなく、オープン日を指します
▼問い合わせ先は各社最寄りの営業担当まで
▼スペックはアミューズメントジャパン調べ

名古屋市内のホール2店舗

最新の「がん検査」に協力

森創が主催「大切な人をがんから守る」

遊技機の部品メーカー、森創（北名古屋市）が4月29日と30日の2日間、名古屋市内のパチンコホールで「がんの早期発見」による健康な街づくりを目指す「パチンコ店がんリスク判定検査トライアル」を実施した。特別協賛するパチンコホール運営の京楽（名古屋市）と善都（愛知県豊田市）が協力して、『サンシャインKYORAKU栄』と『ZENT名古屋北店』の敷地に検査スペースを設けた。

今回使用した検査キットは、線虫を使った新時代のがん検査を提供する株式会社HIROTSUバイオサイエンスの『N-NOSE（エヌノーズ）』。嗅覚に優れた生物・線虫が、尿に含まれるがんの匂いを検知して全身網羅的にがんのリスクを判定する、がんの一次スクリーニング検査だ。俳優の東山紀之さんによるテレビCMが放送されていることもあり、関心が高まっている。

この検査をパチンコホールで行うことを提案した森創の萬道真介取締役は今回の取組に至る経緯をこう語る。

「業界のイメージを変えられないかと考えていたところ、コロナ禍で大阪のホール様が店内でワクチン接種を実施したことで、業界のイメージが変わったような感じを受けた。当社ではエヌノーズの検査を手掛けるHIROTSUバイオサイエンス様とご縁があり、両社の課題を共有したことがきっかけでした」

エヌノーズの検査は現在、インターネットで申し込むか、実施している医療機関に行くか、企業や団体での集団検査などでしか受検方法がない。いずれも検査の必要性が高い高齢者にとっては敷居が高い。実地での検査会などでは、尿を採取するトイレを確保できないという課題もあった。

しかし、パチンコホールであればトイレの問題を解決できるのではないかと考えて、日遊協に相談したところ、日遊協中部支部が支援を表明。テストケースとして、『サンシャインKYORAKU栄』と『ZENT名古屋北店』でトライアルを実施することが決まった。

その後、遊技機メーカー9社の協賛も集まった。事前に名古屋市内の地下鉄の駅にポスターを貼るなどし、開催日前に2店舗合わせて260人からの予約が入った。今回、ホール側は無償で店外に検査受付の場所を提供した。

検査会初日の4月29日。検査会開始前の午前9時には予約をした人たちが『サンシャインKYORAKU栄』の店頭に設置された受付に列を作った。

来場者は受付で検査に関する説明を受けて検査キットを受け取る。その後、自分で採尿をして検体を受付に渡して検査は終了。約4週間後に郵便で検査結果が送られてくる。参加者が負担する検査費用は、協賛各社の協力により1万円（税込）に抑えることができた。

敷地を提供した京楽・パーラー事業部の森田誠広報係長は「日遊協で森創さんからお話があり、当社も社会貢献をやっていきたいのでぜひとお願いしました。全従業員に話をしたところ、親御さんが参加を希望しているという社員もいました」と話す。

『ZENT名古屋北店』でも午前9時を前に参加者が列を作った。普段は絵画などを展示している「ZENT ART MUSEUM」を検査会場に提供した。

善都では検査会実施2日前の27日に新聞に折り込みチラシを入れて「がん検査」の実施を告知した。するとその日から70人ほど予約が増えたという。この日の午前中は検査を待つ人たちの整理に追われていた。

善都の谷口隆彦広報課長は「これだけの反応があることに驚いています。検査を受けられるのは年配のご夫婦が多いですね。健康意識が高い近隣の方々にご案内できて、地域のみなさんのお役に立てたのではないかと感じています」と話した。

2日間にわたって行われた検査会には、両店舗合わせて402人もの人が検査を受けに訪れた。

森創でプロジェクトリーダーを務めた商品企画事業部の竹澤伸也次長は今回の検査会について、「蓋を開けてみるとものすごくニーズがあることがわかりました。検査を受けたくても受けられない人、ネット社会で取り残された人たちがたくさんいらっしゃる。パチンコ業界にはそうした社会の隙間を埋める活動がもっとできるのではないかという想いを強くしました」と手応えを感じていた。

森創では今後も日遊協などと連携しながら、この取り組みを全国に広げていきたいとしている。

参加者から感謝の声

【サンシャインKYORAKU栄】

▼西区在住の60代夫婦
エヌノーズのCMを見て、この検査を受けたいと思っていたが、郵送などが煩わしかった。ここならすぐに受けられるのでとても良かった。パチンコホールで実施すると聞いてびっくりしましたが、なかなか良いことで、ありがたい。

▼60歳の母親と参加した女性
たまたま受けてみたいなと思って調べていたら、名古屋でできることがわかり予約しました。パチンコはやりませんが、ここはいつも通っているところ。病院よりずっといい。全然抵抗はありません。乳がんなども心配なのでこの検査は定期的に受けたいです。

【ZENT名古屋北店】

▼ひとりで参加した女性（50代）
いつも定期検診でいろんなことを指摘されるので、この検査をやりたいと思っていた。よく（施設内にある）コメダ珈琲でお友だちと待ち合わせするので、来やすくてよかった。

▼母親と来た男性（50代）
コロナ禍で毎年やっていた病院の人間ドックを躊躇するところがあって2年ほどやれていなかった。母がこれを見つけてくれて、簡単に検査ができて良かった。パチンコはやりませんが、こういうことはぜひ続けてほしい。

サンシャインKYORAKU栄

ZENT名古屋北店

パチンコ景気動向指数（DI）調査報告書 2022年3月

業況は前回調査から回復

パチンコは回復もパチスロは厳しい状況続く

調査会社のシーズが四半期ごとに実施しているパチンコ景気動向指数（DI）調査によると、2022年3月期の全般的業況は前回調査（21年12月）から回復。3カ月後まで回復傾向にあるが、大幅な回復は見込めなさそうだ。

22年3月期の全般的業況は、マイナス60・0と前回調査のマイナス79・5ポイント回復した。前回調査の見通しよりは回復しているものの、この先3カ月で大幅な回復は見込めず、引き続き厳しい状況が続く見通しだ。

全般的業況は、過去1カ月の収益や売上、粗利などから判断されるもの。新型コロナウイルスの陽性者数も2月のピーク時より落ち着いてきた。ゴールデンウィーク、初夏を迎える、次回調査時の状況はどう変化するのか。

稼働状況はパチンコが41・6ポイント良化のマイナス17・3、パチスロが5・0ポイント良化のマイナス82・7とともに回復した。3カ月後の見通しではパチンコが若干回復する一方、パチスロは現状維持と厳しい状況が続きそうだ。

遊技料金別では、低貸しメダルパチスロ以外は回復。最も回復したのは4円パチンコでマイナス17・6（前回比36・6ポイント良化）と、ここ数年の調査結果の中で最も高い数値まで回復した。前回調査時に過去最低水準まで落ち込んだ20円パチスロは、マイナス82・7（前回比11・8ポイント良化）と若干だが回復した。

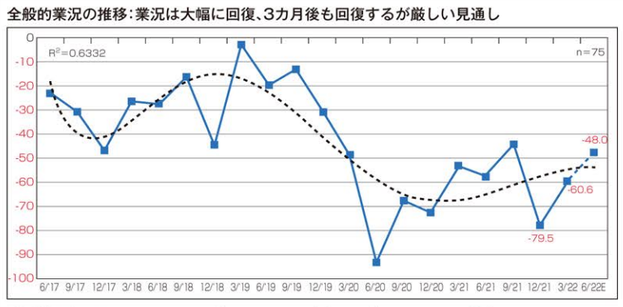
遊技機購入費は、増減差（「増やす」-「減らす」）がパチンコ新台でマイナス32・7ポイント、パチスロ新台でマイナス35・3ポイント。中古機はパチンコ・パチスロともに悪化した。ただし、前回調査の期間は現在ホールのメイン機種となっている機械の導入、そして2月1日の新規則機完全移行に向けた遊技機を購入する傾向にあったと考えると、購入費の減少も納得できる。新規則機に完全移行した状態でスタートしている、次回の調査結果には注目だ。

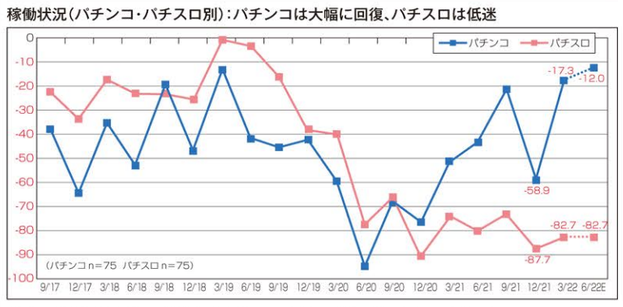
自由回答では、ホール関係者から以下のような声が上がった。

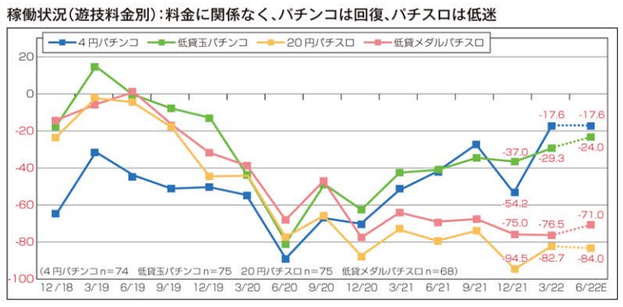
「新型コロナとロシアのウクライナ侵攻の影響は大きい。物価が上がり、日々の生活が厳しくなれば、パチンコどころではない。4円パチンコが好調のように思えるが、極めて一部の機種だけ。結局1円パチンコしか稼働していない」（中部）

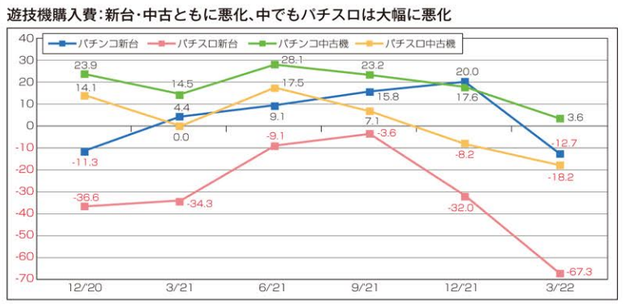
「新規則機では若者のパチンコ・パチスロ離れが多く、固定客が徐々に減っていくので、営業を現状維持することが難しくなっていくと思われる」（東北）

「新規則機になりパチスロの稼動低下を懸念していたが、想定よりもアウトを維持している。ただし、コイン単価は減少しているので売上の組み立てや利益バランスを考える必要がある」（中国）









【調査概要】
実施期間：2022年3月10日～3月28日
回答状況：有効回答55企業、75地域
調査方法：調査票をFAXおよびWebアンケートで送付・回収

POSC

年間拠出総額は11億円

社会貢献・社会還元の実施状況調査結果

一般社団法人パチンコ・パチスロ社会貢献機構（POSC）は4月19日、全日遊連の定例理事会でホール業界が2021年に行った社会貢献・社会還元の実施状況の調査結果を報告した。

調査結果によるとPOSC、全日遊連、都府県方面遊協、支部組合、ホールが2021年に社会貢献・社会還元に拠出した総額は11億31円（9・3%）増加した。活動件数は4・9%減の8346件だった。

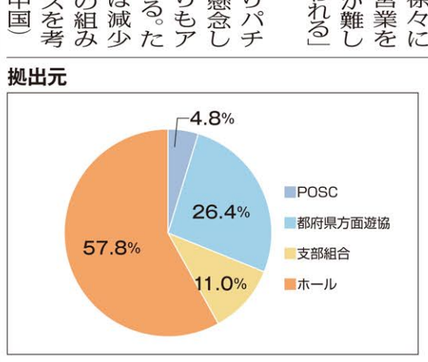
拠出総額の内訳は、現金が8億8351万9019円（78・1%）で、物品が2億4800万4131円だった。拠出元の内訳は、ホールが6億5375万8287円（57・8%）と最も多く、次いで都府県方面遊協（約3・0億円、26・4%）、支部組合（約1・2億円、11・0%）と続いている。

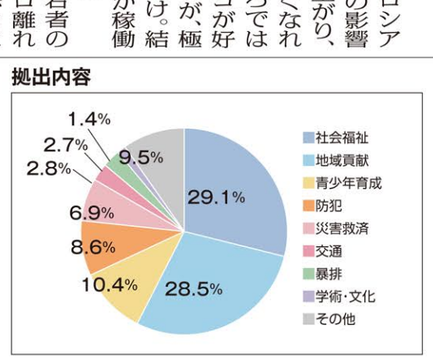
拠出内容は例年通り、社会福祉が3億2960万4262円（29・1%）で最も多かった。続いて地域貢献（約3・3億円、28・5%）、防犯（約1・2億円、10・4%）、青少年育成（約1・0億円、8・6%）の順だった。

寄贈先を総額で見ると、学校が2億2962万8273円と最も多く、昨年比で約7・2倍もの金額に上った。これは寄付金や寄贈品の贈呈のほか、コロナ禍で学校内の光触媒コーティングの施工などが増加したためと思われる。次いで、自治体（約1・8億円）、防犯関連団体（約8625万円）の順。件数別では児童福祉施設が1853件で最も多かった。

寄贈物品は、菓子が8476万9635円（3114件）と総額・件数ともに最多だった。次いで総額が多い物品は、新型コロナ関連、食料品・飲料水、福祉車両などの順。新型コロナ関連ではマスクやアルコール消毒液の寄贈、福祉車両は計11台寄贈された。

POSCの前身は、全日遊連が母体となって2005年に設立した全日本社会貢献団体機構（AJOSC）。19年にパチンコ・パチスロ依存問題の予防と解決を図る事業や研究を積極的に支援するために改組した。





主な寄贈先の内訳

寄贈先	総額（円）	件数
学校	229,628,273	550
自治体	185,930,758	594
防犯関連団体	86,248,670	544
児童福祉施設	67,628,027	1,853
社会福祉協議会	66,084,594	935
依存対策	58,212,260	53
新聞社	38,330,802	111
暴力追放関連団体	32,004,500	185
ラジオ・テレビ局	25,849,037	75
スポーツイベント	24,797,935	123
共同募金会	24,533,149	279
祭・イベント実行委員会	23,899,640	165

主な寄贈物品の内訳

寄贈先	総額（円）	件数
菓子	84,769,635	3,114
新型コロナ関連	30,248,817	170
食料品・飲料水	18,842,716	506
福祉車両など	18,167,564	6
防犯用品	11,642,176	31
セルフ商品購入	11,461,968	116
図書券・書籍	6,293,592	56
施設などへのプレゼント	6,280,401	158
防犯カメラ	6,127,840	9
防災用具	4,392,158	15
家電製品	3,658,754	49
車いす	3,377,060	19
チケットなど	2,700,000	3

玉越

40年の感謝を形に

第40期年度方針発表会

愛知県に8店舗のホールを展開する玉越（名古屋市）は4月14日、名古屋マリオットアソシアホテルで第40期年度方針発表会を開催した。今期の社長方針、営業統括部方針、管理統括部方針などを発表した後、40周年を記念した新事業・エンタメタクシーの走行開始式を実施した。

高木宏動社長は「これまで、独創的な遊技空間やプライドとブランド商品など、他社との差別化を図りながらお客様満足度を高める取り組みを行ってきた。私が代表になってからは、パチンコの周辺事業にも積極的にチャレンジしてきた。飲食、移動通信、宿泊、いずれもまだまだ道半ばだがチャレンジを続けたい」と挨拶。今期の取り組みとしてロゴとHP、ビジョンを一新すると発表した。

一新されたビジョンは「ゴラクをサブリメイト」「ココロ♡をクリエイト」。10年後、50年後、100年後を想像し、どのような未来を作りたいかという観点で検討された。

社長方針としては、「新規事業、新サービスの促進」「将来を見据えた組織づくり」「人材育成」の3つを発表。40年の波に乗り、会社を長く続けていきたいという思いが込められた。

発表会の後半では、エンタメタクシーの走行開始式を実施。高木社長と高木糸美常務、ゲストの元SKE48メンバー・矢方美紀氏がテープカットを行った。

40年の思いを語る高木社長

街中で大きく目立つ、金色の豪華な車体が特徴だ

エンタメタクシーは、「楽しみ×感謝」をテーマに、40年の感謝をエンタメが基軸の同社ならではのやり方で表現した新事業。愛知県内でたった1台だけ走る期間限定のタクシーで、車内では同社の取り組みをまとめたスペシャルムービーが上映されている。乗客には開運おみくじをプレゼント。毎月第一金曜日は無料で乗車でき、玉越スタッフが厳選した地域周辺のオススメスポット間を移動できる。四つ葉のクローバーを探すような感覚で、タクシーを見つける幸運を楽しめる。高木社長は「コロナ禍で遠出が難しい今だからこそ、エンタメタクシーが地元地域の皆さまに楽しさを提供できるような存在になれれば」と語った。

エンタメタクシーは、12月末まで走行を予定している。

日遊協 ホール来店客調査

遊技機が頻度増の一因に

日本遊技関連事業協会の広報調査委員会がまとめた「2021年パチンコ・パチスロファンアンケート調査」によれば、前年よりもホールに行く頻度が増えた人は、回答者の12・7%を占めた。その理由として2番目に多く挙がった項目は、意外にも「遊びたい台が増えたから」だった。

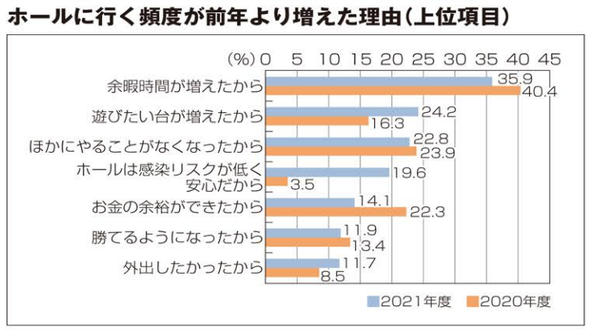
ホールに行く頻度が前年と比べてどのように変わったかを尋ねた質問では、「前年より増えた」が12・7%、「変わらない」が58・3%、「前年より減った」が29・0%だった。今回の回答者は前回の回答者と比べて、頻度が増えた人の割合がわずかに上昇。頻度が減った人の割合もやや減少し、コロナ禍の影響は若干薄れたと言えるだろう。

前年より頻度が増えた人にその理由を聞いたところ、最も多かったのが「余暇時間が増えたから」（35・9%）だった。続いて「遊びたい台が増えたから」（24・2%）。4番目には「ホールは感染リスクが低く、安心だから」（19・6%）がランクインした。

この調査がホール来店客を対象に、昨年11月中旬から12月中旬までの期間に実施されたことには留意が必要だが、新規則機への完全移行を控えていた時期に「遊びたい台が増えたから」という理由で頻度が増えたことは、好ましい結果だ。市場ではその後、『新世紀エヴァンゲリオン～未来への咆哮～』（ビスティ）や『PRe：ゼロから始める異世界生活 鬼がかりver.』（大都技研）といった現在も高稼働を見せる新機種が登場している。

4番目に多く挙がった「感染リスクが低く、安心だから」という理由も見逃せない。前回調査では、ホールに行く頻度が減った人の最大の理由が、感染への恐れだった。しかし今回の調査では、頻度が減った人でも感染を懸念する声は3番目に後退。ホールの安全性が広く伝わりつつあることが伺える。

ホールに行く頻度が前年より増えた理由（上位項目）



日遊協 パチスロプレイヤー調査

若年層は音と光に敏感

「若年層ほどパチンコホールがうるさい場所だと感じている」――。日遊協が発表した「パチスロプレイヤー調査2021」では、こんな結果が明らかになった。若年層は音量だけでなく遊技機が放つ光もうるさく感じているようだ。

2～3カ月に1回以上パチスロを遊技する「現行ユーザー」1560人を対象に、ホール入店時の音量について尋ねたところ、3分の2以上の人がうるさいと感じていた。割合の分布は、「うるさく感じている」が22・7%で、「ややうるさく感じている」が44・0%。「気にならない」は14・0%で少数派だった。

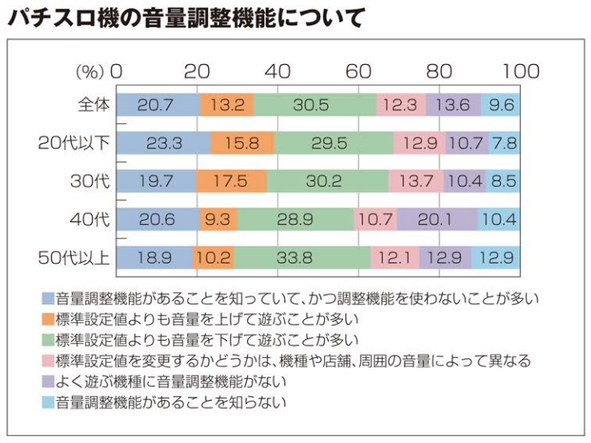
うるさく感じる人の割合は、20代以下では72・1%だったのに対し、50代以上では63・2%。年齢が上がるにつれて、うるさく感じる人の割合は低減した。

遊技中の音量についても同様。入店時や遊技中の音量をうるさく感じる人の割合は、3年前の調査よりも若干増えていた。一部の現行機には音量を調整できる機能が備わっているが、標準設定値から音量を下げて遊ぶことが多い人の割合は、全体の30%にとどまった。

調査の分析を担当したエンタテインメントビジネス総合研究所は、「若い世代は入店時や遊技中の音量が小さいほうが良いと考える傾向にあるものの、遊技中の自分の音はしっかり聴きたいと読み取れる」とコメントしている。

今回の調査では、遊技中の光量についても聞いた。回答者全体ではうるさい（まぶしい）と感じる人の割合は61・3%。若年層ほどうるさいと回答する人の割合は上昇した。

パチスロ機の音量調整機能について



TOP INTERVIEWS

※本インタビューはダイジェスト版です。
詳細は月刊アミューズメントジャパン5月号をご覧ください。

価値あるモノの提供がメーカーとしての本懐

マースエンジニアリング　江藤征弘　代表取締役社長

4月1日付けでマースエンジニアリングの社長に就任した江藤征弘氏（53）。取締役から抜擢された江藤新社長は、現在の同社を取り巻く環境をどう捉えているのか。そして会社をどう導いていくのか。抱負を聞いた。［文中敬称略］

――社長就任にあたって、何が評価ポイントで何を期待されていると感じましたか。

江藤　私は大きな身体の見た目と違って、内面ではしたたかに計算しながら事を進めるタイプのようです。無茶なことはしないし、勢いで物事を進めることもしない。ベスト、ベター、バッドの境目も心得ています。こうした点がおそらく評価されたのでしょう。私は前社長の下で長くやってきたメンバーの一人ですから、人間性もよく知られています。期待された真意は分かりませんが、「こいつならきっと、なんとかやってくれるんじゃないか」と託されたのだと思います。

えとう・まさひろ
1969年生まれ。新潟県出身。96年にマースエンジニアリング（現マースグループホールディングス）入社。人にうらやまれるほどのゴルフの腕前をもつ。

業界発展に全力貢献

――今の遊技業界をどのように見ていますか。

江藤　新規則機への完全移行は、ある意味ではCR機が導入されたときと同じくらいのインパクトだと感じています。世界的な新型コロナの流行、気候変動による災害の多発、それによりサプライチェーン網や流通網の混乱による慢性的な部品不足となってきており、我々設備機器メーカーにも影響が出てきていると聞いています。当社としても受ける影響は非常に大きいですが、こうした状況でも遊技業界は、遊技されるお客様を増やさなくてはなりません。設備メーカーの我々ができることは微々たるものかもしれませんが、力が及ぶ限り後押ししてまいります。

――スマート遊技機についてはどのように考えていますか。

江藤　明るい未来を拓くものには喜んで協力していきたいと考えています。ユニットメーカーとして我々がシステムの一端を担うスマート遊技機については、日工組、日電協が販売の見通しを発表しました。スマートパチンコは来年1月、スマートパチスロは今年11月の目標と聞いています。部材不足などのために当初予定から延びてしまっていますが、当社としては24年度上期に予定されている新紙幣の改刷も視野に入れ、できる限りホール様の負担にならないようなユニットの提供を進めていくつもりです。

――キャッシュレスもホットワードです。

江藤　これは業界全体で考えるべき課題ですね。電子マネーが普及し、現金を持ち歩く必要性は、都市部では徐々に少なくなってきています。Z世代と言われる若い人たちは不要不急の現金を持たないという傾向も各種調査で報告されています。遊技人口の減少が続くなか、現金でしか遊べない環境のままでよいとは考えていません。とはいえキャッシュレスについては乗り越えなければならない問題が多くあり、パンドラの箱のような部分もあるので、やはりこの件は業界全体で慎重に議論していく必要があると思います。

――世界的な部材不足に対してはどう対処していきますか。

江藤　今の状況はこの先しばらくは続くと思います。当社で特に不足しているものは、CPU、半導体、コネクター、ハーネスなど。これらは当社だけでなく、ほとんどの製造メーカーが調達するのに非常に苦労しています。この問題に対してはサプライヤー任せにするのではなく、ないものは自分たちで探す意気込みでいます。ですが仮に代替品が見つかっても、部材コストや輸送コストが以前とは比べものにならないほど高騰しているので、製品価格への転嫁は避けられません。この需給バランスの崩れがどこで留まるのか、もとに戻るのか。分からないことばかりですが、それを理由に事業を止めるわけにはいかないと考えています。

開発型企業の姿勢貫く

――製品づくりの方向性はいかがですか。

江藤　パーソナルシステムをはじめとする今までの製品群を大切にして、もっと機能を熟成させたいと考えています。例えばユーザーインターフェースの改良。果たす機能は同等でも、もっとスマートかつ正確なものにアップデートするイメージです。ホール様もプレイヤーも代替わりしていますから、私たちも新しいことへの挑戦を続けなければなりません。開発型企業を標ぼうするからには、柔らかい脳と柔らかい筋肉をフル活用する必要がある。プロダクトアウトを脱みながらも、マーケットイン、ユーザーインを実現するために、常に全力で臨んでいきます。

製品づくりの3条件

――貴社製品は省力化や効率化が特徴的です。

江藤　私は製品づくりにおいて、人があまり手をかけずに済むこと、速いこと、正確であることが絶対的な3条件だと考えています。これからの製品開発ではそれらのレベルを高めていきたい。同じ成果を上げられるのであれば、人もモノも少ないほうがずっと良いのです。省きすぎは弊害を生むので極論は避けますが、常に理想に近づくための製品開発を念頭に置いています。私が特に重視するのは速さ。ホール様にとって、朝は開店までの準備が早くできて、閉店後は「ハイ終わり」という状態が理想です。実際には大量のデータ処理があるので、その道のりは遠いものですが、ベストを尽くし、ベターな結果を目指しています。

――AI（人工知能）を搭載したユニットも業界の先駆けでした。

江藤　ホールコンピューター機能とAIをユニットに実装した『AIユニコン』をお披露目したのが19年7月。AIの将来予測を基に、素早い意思決定を下せるようにと開発しました。とはいえ最終的には人の判断が重要ですので、うまく共存しながらご活用いただけるように進化させていきます。

――今後のマースエンジニアリングについてどのような将来像を描いていますか。

江藤　これまでと変わらず、メーカーの本懐として価値ある製品を開発・提供していきます。そのためにもホール経営者様にご協力いただいて、ディスカッションを深めていきたい。社内で報告を聞くだけでは現状把握に支障が出ることもありますから、できる限り現場に赴いて感触を肌で感じたい。他方でマースグループ企業とのシナジーも欠かせません。今後も製品の企画開発からアフターサービスまで、一貫した体制を整えている強みを生かして邁進していく所存です。

変わり続けることで人も企業も強くなる

ユーコーグループ　金海基泰　代表取締役社長

九州を中心に全国でホール25店舗を運営し、グループ企業で遊技機リサイクル事業や障がい者就労継続支援、旅亭、ゴルフ事業などを手掛けるユーコーグループ（福岡県久留米市）。業界が変革期を迎える中、どのような舵取りがリーダーに求められるのか。金海基泰代表取締役社長に聞いた。［文中敬称略］

――新型コロナの感染拡大から2年が過ぎました。この間の状況についてはどう受け止めていますか。

金海　当初はクラスターが起こったわけでもないのに、メディアではホール営業を叩くニュースが散見され、パチンコ業界に対する世間のマイナスイメージが払拭されていないことを痛感しました。ただ、その後は全国遊技場青年部連合会が換気実証実験の映像を公開したり、店舗内でワクチン接種を行ったりといったことがメディアに取り上げられて、風向きが変わった感じもしています。そういう意味では、社会貢献活動など、業界の動きをもっと社会にアピールする活動に力を注ぐ必要があるでしょう。地域の中で役に立っている業界であれば、当然周りも応援してくれるようになる。ただ、ホール企業単体でできることは限られています。そこはホール団体で一度集約して、世の中にアプローチしていければと思っています。

業況に合わせた体質改善を

――ユーコーグループの強みについて教えてください。

金海　組織力がグループの強みだと思います。当社には「笑顔と元気の創造」という企業理念がありますが、これはお客様、従業員、社会にとって価値あるものを提供し、私たちに関わる全ての人々の"笑顔と元気"を創造していくという考え方です。今ではこの企業理念がグループ社員に広く浸透していると感じています。トップダウンで物事を進めなくても、現場から各店舗の営業方針やサービスに関しての提案が上がってくる。新卒採用を始めて28年になりますが、業界への興味ではなく、ユーコーグループの社風に共感して入社してくれる人財が増えました。その結果、会社に愛着を持ち、高い意識を持った人間で組織を構成できるようになりました。同時に、企業としてコンプライアンスを遵守した労働環境の整備を進めてきたことで、ワークライフバランスを実現できるようになったこともグループの強みです。

かねうみ・もとやす
1974年生まれ。福岡県久留米市出身。98年にユーコー入社。営業部門、経営企画部門を統括し2010年、代表取締役社長に就任。常に笑顔を大切にしている。

――経営課題や中長期的な成長戦略について聞かせてください。

金海　当社もコロナ禍による市場縮小の影響を少なからず受けています。今後はこの状況に合わせた体質改善を進めていくことが重要になります。これからは店舗数の追求ではなく、遊技機の保有台数を追求する時代だと位置づけています。そのために規模が小さい営業不振店舗を閉店しながら、新規出店を進めていくスクラップ&ビルドを進める必要がある。店舗数を減らしても、保有台数を増やす変革が必要で、Bランク店であれば隣の土地を買って台数を増やす方法も視野に入れています。今のうちに小型店は精査して、他業種展開も視野に入れた決断が大切。すでに全国どこを見ても優良物件は転がっていません。その中でもユーコーが営業すれば成功するという場所を見極めていきたいと思います。

経営資源を効率的に活用

――新規事業への考え方を教えてください。

金海　パチンコ事業一極集中のリスク分散を進めるとともに、グループ全体での収益増を図るのが狙いです。異業種を展開することで従業員の職場選択の幅を広げ、配置転換などによるモチベーションの向上やスキル開発も期待できます。ここ数年で会社の組織体制を変えて、事業計画の立案から決済までの流れをスリムにしました。専務、常務を筆頭に現場との議論はスムーズになりました。今では担当者が毎週何かしら提案を持ってくるようになっています。誰しもがパチンコ業界の現状に不安を持つ中、他業種に挑戦できるということで社員のモチベーションが保たれている側面もあると感じています。

――社員に求めることについて教えてください。

金海　変わり続けることです。業界は、設置台数や出店場所のトレンドをはじめ、設備やサービス、遊技機の性能や遊び方に至るまで、この数十年で大きく変化しました。当社だけ見ても、ホール経営だけでなく、不動産や飲食、トレーニングジムなど、さまざまな展開をみせています。その変化を生み出したのは、従業員一人ひとりの努力やチャレンジの積み重ね。歴史や伝統は大切ですが、過去に固執して変化を怖れていては、時代遅れの会社になっていたと思います。昨日より今日、今日より明日と、日々のわずかな変化が5年後、10年後に大きな変化を生み、成長に繋がる。業界を取り巻く環境はどんどん変化していくでしょうから、社員全員が変わり続けることでしか、今の世の中は勝ち抜けません。従業員一人ひとりが変化することで、社員が成長して会社を支えてくれると信じています。

――スマート遊技機について現時点での意見を聞かせてください。

金海　業界が抱えていた脱税、不正、ゴトなどの悪いイメージを払拭していくために必要不可欠で、絶対に進めた方がいいと思っています。ただ、今のタイミングはどうなのでしょうか。ホールは年始の大量撤去のタイミングで遊技機を替えたばかり。3年間しっかり使い切りたいと考えるホールもあります。1年ほどの仕様変更はホールに資金がない今の業況では厳しいでしょう。かつてのようにCR機と現金機が混在する時代をつくるのも混乱を生むのではと危惧しています。そうならないためには、数年後でもいいので確実に移行する時期を決めてほしいですね。そうすれば、そこに向けて当社も含めてホールは真摯に対応するでしょう。多くのホールは新しい遊技機に期待と不安を持っています。ホール企業が少しでも安心して準備ができるように幅広く情報が周知され、計画的なスケジュールでスマート遊技機への移行が行われればと願っています。

――最後に今後の抱負を。

金海　いまのユーコーはチャレンジャーです。お客様が一番店にしか残らない風潮は当分変わらないでしょう。だからこそ他の競合ホールに挑んでいくしかありません。そのための旗印が必要となる中で、地元である久留米市（福岡県）や、辻堂（神奈川県）、宇部（山口県）の店舗などはユーコーブランドの象徴としてこれまで以上に重要になる。個ではなく、組織として強いユーコーグループの基盤を、この10年でしっかりと築き上げたいと考えています。

シーズリサーチ　遊技者の娯楽参加率

成人全体と比較して総じて活動的

シーズは4月27日、各種娯楽の参加者率を発表。インターネット動画は67・7％、SNSは48・8％、無料スマホゲームは34・0％だった。

公営競技4種で参加者率が最も高いのは競馬で10・5％、次いで競輪4・3％、ボートレース4・2％、オートレース3・3％。パチンコ・パチスロは8・7％。

インターネット動画、SNS、無料スマホゲームの3種目いずれについても、パチンコ・パチスロ遊技者（以下、遊技者）における参加者率が、回答者全体の参加者率を上回った。

公営競技についてはこの傾向がさらに顕著で、遊技者における参加者率が、回答者全体の参加者率を大きく上回った。例えば、競馬の参加者率は先の通り回答者全体の10・5％だが、遊技者では40ポイントも高い50・5％だった。

調査は、シーズの調査部門シーズリサーチ、エンタテインメントビジネス総合研究所（EBI）、アミューズメントプレスジャパン（APJ）が今年2月に共同で実施。各種娯楽を提示し、それぞれについて過去1年間の参加・実施回数を尋ね、1回以上遊んだことがある人を「参加者」と定義している。

同時に発表した各娯楽に対するイメージを調べた結果は、パチンコ・パチスロが他のギャンブル系レジャーと比較して良い印象が持たれていないことを示した。

各娯楽について、「とても印象が良い」から「とても印象が悪い」の4段階でイメージを尋ね、「とても印象が良い」と「やや印象が良い」を合算した値で順位付けした結果、競馬が26・9％、ゲームセンターが26・0％だったのに対して、パチンコ・パチスロは8・7％にとどまった。この値はオンラインカジノより高いものの、麻雀、公営競技4種、仮想通貨より低かった。

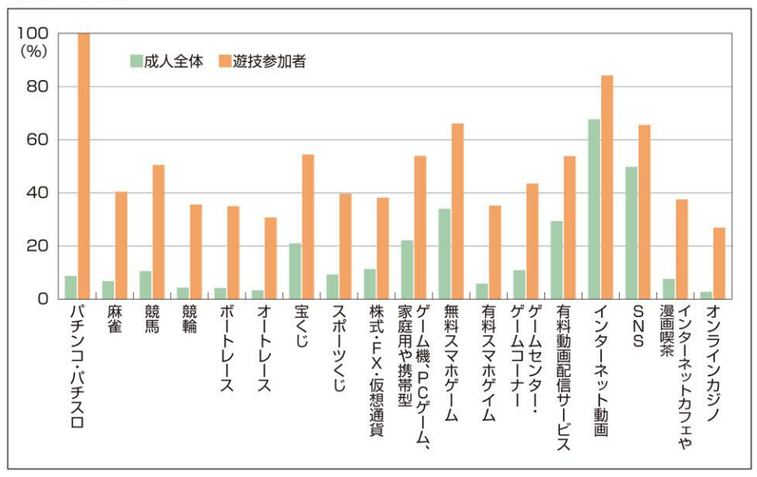
＊　＊

本アンケート調査は居住地が大都市部に偏らないよう割り付け、有効回答37532サンプルを得た。得られた回答は、性・年代の人口構成比に合わせたウエイトバック集計を行った。

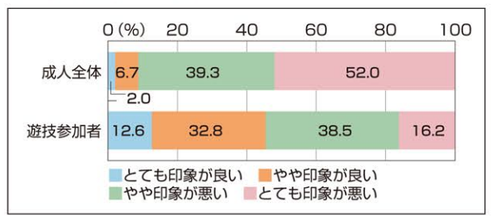
このスクリーニング調査から抽出した過去1年以内の遊技経験者1500サンプルについてさまざまな角度から分析した『パチンコ・パチスロプレイヤー調査2022』が6月中旬に刊行される予定。

［問い合わせ先］アミューズメントプレスジャパン

各娯楽の参加率



パチンコ・パチスロのイメージ



統合型リゾート（IR）整備　大阪・長崎が申請、和歌山は断念

大阪・夢洲IR

大阪府・市は4月27日、国（国土交通省）に整備計画の認定を申請した。

夢洲IRは、大阪IR株式会社により設置運営される計画で、初期投資額は約1兆800億円。中核株主となる日本MGMリゾーツ（出資割合約40％）とオリックス（同40％）のほか、関西地元企業を中心とする少数株主20社（各社の出資割合は5％未満）が約5300億円を出資。約5500億円がプロジェクトファイナンスによる借入で、三菱UFJ銀行と三井住友銀行からコミットメントレターを取得している。

開業時期については、工程が最も早く進捗した場合、2029年秋から冬頃を想定している。

開業3年目期のIR事業全体の売上高は約5200億円（約44億ドル）を見込んでいる。このうちカジノ部門の収益が約8割の4200億円（約33億ドル）を見込む。

夢洲IR内のカジノ施設の面積は暫定計画値で6・51万平米（ゲーミング区域の面積は暫定計画値2・31万平米）で、規模感においてはラスベガス・サンズ社の子会社が運営する主要IR施設に引けをとらない。しかし、シンガポールの「Marina Bay Sands」の2019年のゲーミング収益は21・7億米ドルだったことを考えると、夢洲IRのゲーミング収益見込み約33億ドルはかなり挑戦的な数字だ。

長崎・佐世保IR

長崎県議会は4月27日、国に整備計画の認定を申請した。

IR設置運営事業者に選定されているカジノオーストリアインターナショナルジャパン（CAIJ）は佐世保市のテーマパーク「ハウステンボス」に隣接する区域32・2haに施設床面積合計12万平米のIR施設を開発し、開業5年目の2031年度に年間約2716億円の売上（このうちゲーミング収益が74％）を見込んでいる。

大阪府市と和歌山県では整備計画の審議の中で開業資金の借入に関して金融機関名が挙げられていたのに対して、佐世保市議会・長崎県議会ではこれが明かされてこなかったことで「不透明」との批判もあった。

佐世保市に計画されているIR施設の初期投資額は約4383億円で、このうち自己資本は約1753億円（CAIJが約80％、国内企業が約20％）。借入金約2630億円については、4月12日に公表された整備計画最終案に「選定中」として金融機関名の記載がない。しかし、プライベートエクイティ等運用会社、外資系事業会社、国内大手企業・九州内企業、CBRE社から合計して資金調達総額以上のコミットメントレター等を取得しているとしている。

和歌山IR

県議会は4月20日、整備計画の認定を国に申請する議案を反対多数で否決。4月28日までの整備計画の提出を断念した。

	夢洲IR	Marina Bay Sands
ゲーミング施設面積	施設面積：6.51万平米／ゲーミング区域面積：2.31万平米（いずれも暫定値）	フロア：1.48万平米
テーブルゲーム	470台	610台
スロットマシンおよびETGs	6400台	2690台
ゲーミング収益	33億米ドル（開業3年目見込み）	21.7億米ドル（2019年）

テーマパーク「ハウステンボス」に隣接する32haに2027年秋の開業を目指す